



◀⑥▶



長野 正弘理事 歯周病

て肺や気管に落ちて発症する誤嚥性肺炎は、口の中の歯周病菌を含む常在菌が原因になり得ると言われます。歯周病治療の基本である口の清掃を徹底させることで、この肺炎を防ぐことができます。

歯周病は、歯茎が腫れ、歯がグラグラして最後には抜けてしまう病気であることは、多くの方がご存じだと思います。その歯周病が、口の中だけでなく全身のさまざまな病気と関わっていることが分かってきました。

歯周病で腫れた歯茎の血管から入った歯周病菌は、その内毒素で血糖値を下げるホルモン（インスリン）の働きを邪魔します。また、糖尿病で血行障害が現れると歯茎の炎症を憎悪させます。歯周病と糖尿病は相互に深く関連し、歯周病の治療が糖尿病の治療に良い影響を与えます。

食べ物や唾液などが誤っ

全身の病気と関係

妊娠中は口の中で女性ホルモンを栄養とする菌が増殖し、歯周病が進行することがあります。妊娠期に歯周病にかかっていると、早産や低体重児出産の危険度が高くなることが分かっています。この他にも脳梗塞、心筋梗塞、狭心症、認知症、細菌性心内膜炎などさまざまな全身の病気との関わりが報告されています。

歯と口は食べ物が初めて出合う入り口だけに、歯を失ったり歯周病が進んだりすると体全体に及ぼす影響が高いと言えます。かかりつけ歯科医院を持ち、定期的な歯と口の健康診査を受けることが健康寿命の延伸につながります。